



SOUTEN No.384

「いのち輝く未来社会のデザイン」をテーマに、1800超

新春を迎え、謹んで新年のご挨拶を申し上げます。旧年中は、当財団の運営に對しまして、皆様方より温かいご支援とご厚情を賜り、心より御礼を申し上げます。



躍動する午年、歩み続けて

公益財団法人鹿屋体育大学体育・スポーツ振興教育財団 理事長 風呂井 敬

昨年、日本にとって大きなイベントが開催されました。大阪・関西万博では、「いのち輝く未来社会のデザイン」をテーマに、1800超

のペビリオンが形成され、世界中から多くの人々が集い、持続可能な社会のあり方や新しい価値観を共有しました。スポーツと同様に、万博は人と人をつなぎ、国境を越えた交流を生み出す場です。私たちも、スポーツを通じて健康と活力を提供し、未来を切り拓く力を育むという使命を改めて胸に刻む機会となりました。

最後にになりましたが、皆様方のご健勝とご多幸を心より祈念申し上げます。新年のご挨拶

さて、今年も午年です。午年は「躍動」前進「情熱」行動の象徴とされ、目標に向かって果敢に挑戦し、着実に歩みを進める年といわれています。スポーツの世界においても、挑戦なくして成長はありません。鹿屋体育大学の学生一人ひとりが、それぞれ目標に向かって情熱を持って挑戦し、大きな成果を積み一年となるよう、当財団は全力で支援してまいります。2026年のアジア大会、そして2028年のロサンゼルスオリンピックに向けた準備も本格化する中、学生の皆さんが世界の舞台で輝くための環境づくりをさらに支援して

羽ばたけ 大空へ

蒼天

新聞財団

編集：鹿屋体育大学
発行：公益財団法人鹿屋体育大学 体育・スポーツ振興教育財団
編集責任者：鹿屋体育大学長
発行人（発行責任者）：財団理事長 風呂井 敬
財団事務局：〒891-2393 鹿屋市白水町1番地内 0994-46-4827(直)

令和7年度 卒業証書・学位記授与式のご案内

日時：令和8年3月24日(火) 10時30分～
会場：鹿屋体育大学 水野講堂

※YouTube配信します。詳細は、後日大学公式サイトで案内いたします。

旧年中は鹿屋体育大学をご支援いただき、誠にありがとうございました。本年もよろしくお願いたします。

令和7年度は、本学の教育・研究の今後に関わる重要な出来事が2つ重なりました。1つは入学選抜に関することです。本学ホームページ上で「入学選抜に係る告知(令和7年4月30日)」をお伝えしましたが、令和9年度入学選抜(令和8年度実施)を新たな方法で実施します。そして、もう1つは、スポーツ基本法及びスポーツにおけるドーピングの防止活動の推進に関する法律の一部を改正する法律」の成立(令和7年6月13日)です。近年のスポーツを取り巻く社会環境の変化、並びにスポーツを通じた社会課題の解決に向けた期待の高まりなどが今回の改正の背景になっています。

この2つは、公表の年度が偶然重なったにすぎません。しかし、本学の入学選抜方法の変更の主なねらいの一つは、スポーツ基本計画において謳われている「スポーツを「ささぐる」人材の養成があります。一方で、スポーツ基本法及びそれに基づく「スポーツ基本計画」で示される「ささぐる」スポーツ実践の領域と、「集まる」つながる」といった、いわば「社会的現象」の領域との柔軟な双方の連携を可能にする資質を持つ人材の獲得を目的とするものです。それは同時に今回のスポーツ基本法の改正において謳われている「スポーツを通じて社会的課題の解決」に貢献で

ささげていただきます。平成28年のスポーツ基本法の公布以降、スポーツに対しては「ささぐる」だけでなく「みよ」や「つなげる」といった言葉で代表される多様な関わり方が認識されるようになってきました。また、昨年6月に成立したスポーツ基本法の改正法においては、それらに「集まる」「つなげる」が加わりました。本学に限らず体育・スポーツ系大学の入学選抜では、従来「実技」すなわち「する」に関連する能力の評価が中心をなしてきました。しかし、そのような選抜方法では、「する」以外の要素に「つなげる」や「みよ」に関連する資質を持つ人材の選抜は困難です。そこで本学は、スポーツ総合課程の入試の多様化を図り、スポーツを「ささぐる」人材の養成に資する教育プログラムを展開し、スポーツを支えることで未来を切り拓く人材の獲得と養成を目指すことにしました。

その方策として、スポーツ総合課程に従来の競技力重視型に加えて、スポーツを「ささぐる」意欲・能力を重視する新たな総合型選抜を導入します。さらに、一般選抜においても従来の選抜方法に加え、学力をより重視した選抜方法も新たに設定します。このような「ささぐる」人材の育成を視野に入れた入試選抜の変更は、スポーツを「ささぐる」すなわち「スポーツ実践」の領域と、「集まる」つながる」といった、いわば「社会的現象」の領域との柔軟な双方の連携を可能にする資質を持つ人材の獲得を目的とするものです。それは同時に今回のスポーツ基本法の改正において謳われている「スポーツを通じて社会的課題の解決」に貢献で

きる人材の養成につながるものであるといえます。一方、今回のスポーツ基本法の改正では、「スポーツに関する諸科学の例示」において、力学を削除し、新たに7つの学問領域が追加され「国は、医学、歯学、薬学、生理学、栄養学、法学、経済学、社会学、心理学、倫理学、教育学等のスポーツに関する諸科学を総合して実務的及び基礎的な研究を推進し、これらの研究の成果を活用してスポーツに関する施策の効果的な推進を図る。」と記されています。すなわち、スポーツ科学に携わる者として、より総合科学的アプローチが求められていることになりました。鹿屋体育大学は、これまでもスポーツ・武道実践科学系、スポーツ生命科学系及びスポーツ人文・応用社会科学系の3領域からなる教員組織を構成することで、スポーツ、武道、体育及び健康づくりに関する教育・研究の充実を図ってきました。その体制は、これまで以上に重視されるであろう、総合科学的アプローチに基づく教育・研究を推進するうえで、十分に機能するものであると確信しています。

令和8年度は、新たな入試選抜の実施に加え、第4期中期目標・中期計画の達成状況に関する中間報告をまとめるべくはなりません。教職員一同力を合わせ、令和8年度各課題を確実にクリアしていく所存です。本年も、ご指導、ご支援をどうぞよろしくお願い申し上げます。

11月1日学園祭「蒼天祭」の日、1期生が還暦を迎えることを機に開催された本学初のホームカミングデイには多数の1期生や同窓生が来学され、卒業以来の再会を喜ぶ姿が多々見られた。「懐かしい学食体験」企画として準備した卵が溢れる「たまごサンド」や、今では食べ切れない量の「スペインャル」を頼ると、在学当時、2階の喫茶店のガラス窓から1階の食堂を見下ろしながら「憧れの」○○さんがいる!と話していた淡くも、苦くもある青春の思い出話が次々と飛び出していた。また1期生の多くが入居していた学生宿舎見学ツアーでは、当時は2棟しかなく、A棟の上層階に「男子立入禁止」の看板があるくらいで女子学生も居住していたことや、今では不適切にもほどがあるような破天荒ぶりや武勇伝を暴露していた。先輩がいないので自分たちがルールだったと、青春時代を過ごした場所に帰ってきて、次々と蘇る思い出を懐かしみつつも、この日の再会が還暦を迎えたこの先の人生の活力になりそうな表情で話している姿が印象に残った。そして、間もなくその仲間に入ると、ポーと生きている自分に「モノより思い出(体験)」という懐かしいキャッチコピーが浮かび、道標となりそうだとこの機会に聞かれたことへの感謝の気持ちを、参加者の皆さまへこの場を借りて伝えたい。(A・E)

スポーツを愛する人たちへ

(公財)ミズノスポーツ振興財団は、「日本国のスポーツの振興に必要な事業を行い、さらなる国民の心身の健全な発達に資する」を目的とし、その活動は55年以上にわたります。具体的には、スポーツの普及振興やスポーツの国際交流の発展に対する助成、スポーツに関する科学的・学術的・医学的研究に対する助成、優秀なスポーツ指導者やスポーツライターを顕彰する事業などを行っており、その助成累計額は約93億円に及びます。

公益財団法人 ミズノスポーツ振興財団

第36回

『蒼天祭2025』を開催!



今年も盛り上がった「マッスルコンテスト」。グランプリに輝いたのは、右から3番目の山西さん

11月1日、鹿屋体育大学の学園祭「第36回蒼天祭2025」が、図書館・講義棟裏広場をメイン会場に開催されました。会場にはキッチンカーが何台も並び、坂口俊哉講師のゼミ生、課外活動団体、留学生らによる模擬店・企業出店があり、飲食の販売も行われました。

イベントステージは午前10時から、ダンス部の弓場葉月さん（スポンサー総合課程4年、浜松工業高等学校・静岡）と李星語さん（修士課程1年、華中師範大学・中国）の2人によるしなやかな華麗なパフォーマンスで幕開け。司会進行は第42代体育会長の國光元就さん（武道課程2年、北筑

11時からの「歌うまコンテスト」には飛び入りを入れて9人が挑戦。見事グランプリに輝いたのはヒブライトを最大限に生かして「宇宙戦艦ヤマト」を歌った大浦宏文さん（スポーツ総合課程3年、長崎日本大学高等学校・長崎）でした。大浦さんは「今年こそはグランプリを獲得したい」と思い、1カ月前からカラオケに通って練習しました。低音とヒブライトで会場を震わせることができてよかったと喜びました。来年2連覇を目指します」と喜びの声を聞かせてくれました。



歌うまコンテストで優勝した大浦さん



昨年に続き今年も「PIZZAとノンアルを売りたい店」を出店した。坂口先生とゼミの皆さん

11時からの「歌うまコンテスト」には飛び入りを入れて9人が挑戦。見事グランプリに輝いたのはヒブライトを最大限に生かして「宇宙戦艦ヤマト」を歌った大浦宏文さん（スポーツ総合課程3年、長崎日本大学高等学校・長崎）でした。大浦さんは「今年こそはグランプリを獲得したい」と思い、1カ月前からカラオケに通って練習しました。低音とヒブライトで会場を震わせることができてよかったと喜びました。来年2連覇を目指します」と喜びの声を聞かせてくれました。

11時からの「歌うまコンテスト」には飛び入りを入れて9人が挑戦。見事グランプリに輝いたのはヒブライトを最大限に生かして「宇宙戦艦ヤマト」を歌った大浦宏文さん（スポーツ総合課程3年、長崎日本大学高等学校・長崎）でした。大浦さんは「今年こそはグランプリを獲得したい」と思い、1カ月前からカラオケに通って練習しました。低音とヒブライトで会場を震わせることができてよかったと喜びました。来年2連覇を目指します」と喜びの声を聞かせてくれました。



学長杯 破魔投げ大会の様子

11時からの「歌うまコンテスト」には飛び入りを入れて9人が挑戦。見事グランプリに輝いたのはヒブライトを最大限に生かして「宇宙戦艦ヤマト」を歌った大浦宏文さん（スポーツ総合課程3年、長崎日本大学高等学校・長崎）でした。大浦さんは「今年こそはグランプリを獲得したい」と思い、1カ月前からカラオケに通って練習しました。低音とヒブライトで会場を震わせることができてよかったと喜びました。来年2連覇を目指します」と喜びの声を聞かせてくれました。

11時からの「歌うまコンテスト」には飛び入りを入れて9人が挑戦。見事グランプリに輝いたのはヒブライトを最大限に生かして「宇宙戦艦ヤマト」を歌った大浦宏文さん（スポーツ総合課程3年、長崎日本大学高等学校・長崎）でした。大浦さんは「今年こそはグランプリを獲得したい」と思い、1カ月前からカラオケに通って練習しました。低音とヒブライトで会場を震わせることができてよかったと喜びました。来年2連覇を目指します」と喜びの声を聞かせてくれました。

「王佐兄弟」あばれる君を迎えてのお笑いライブが行われ、来場者数がピークに。14時からは大声コンテストも行われ、このほかSPORTRECスポーツパフォーマンス研究センター見学・体験ツアー、重宝プロジェクト事業成果報告会、研究室・ゼミ紹介、課外活動団体による体験会などが開催されました。

陸上競技部



私たち陸上競技部は、男子78名、女子15名の計93名で活動しています。陸上競技部は、短距離ブロック、中長距離ブロック、跳躍・混成ブロック、投擲ブロックの4つが存在しており、93名の部員それぞれが4つのうちのどれかに所属し、競技力に関係無く、各々の目標に向けて、切磋琢磨し競技に取り組んでいます。陸上競技は個人種目であるため、どこか孤独感を感じてしまうこともあります。同ブロックや学年での繋がりはもちろんのこと、ブロックや学年の垣根を超えての繋がりがコミュニケーションを大切に、互いに励まし合い、刺激し合いながら、日々、活動しています。また、競技力の向上はもちろんのこと、人間としての成長にも力を入れ、学生主体で競技部を運営し、一人ひとりに役割が与えられているのが、本競技部の魅力の1つです。

鹿屋体育大学では、陸上の公認競技会が年に数回行われますが、陸上の練習をするための最高の施設や設備があり、非常に恵まれた環境で競技に取り組むことができます。陸上競技に没頭するには最高の環境がそろっています。鹿屋体育大学の陸上競技部でともに活動してみませんか。

本学の学園祭「第36回蒼天祭」が開催された11月1日に、「ホームカミングデー」と1期生還暦記念パーティーが行われ、205教室で記念撮影



ホームカミングデー&1期生還暦記念パーティーを開催

全国各地から約60人の卒業生や当時の教員等が集まりました。10時15分から「蒼天祭」が催され、14時から「ホームカミングデー」と1期生還暦記念パーティーが行われ、205教室で記念撮影

1期生から29期生まで5人の卒業生を迎えての「卒業生トークセッション」が繰り広げられました。正午から「なつかしの学食」と題し、1日限りの限定で「スペシャル（300円）」と「卵サンド（200円）」メニューが復活。ほぼ全員が、両方のメニューを注文し、和気あいあいと話しながら東の間のランチタイムを過ごしていました。



1期生の藤本さんから金久学長へ寄附目録の贈呈

夜は鹿屋市のホテルさつき苑で、中西茂鹿屋市長、金久学長も出席の下「1期生還暦記念パーティー」が盛大に行われ、参加者は学生時代に戻って久しぶりの再会を楽しみました。パーティーの締めくくりには、1期生一同から参加費の一部を本学への寄附として贈呈していただき、1期生代表の藤本淳也さんから学長へ目録が手渡され、会場からは大きな拍手が送られました。このご厚意は、今後の本学の教育・研究活動の充実などに活用させていただきます。

1期生で本学教員の吉塚一典准教授が務めました。金久博昭学長からの歓迎の言葉、3期生で本学教員の北村尚浩同窓会長挨拶、梅ちか子キャリア形成支援センター長から在学学生・同窓生・教職員を対象にした公式コミュニティサイト「NIFS Links」について、1期生でもある前田明理事・副学長から鹿屋体育大学の現状について説明がありました。

おそろいのユニフォームで応援しよう!

みななが一つになれる思い出に残る自分たちだけのユニフォームを作ろう!

高精細Tシャツ
プリンタ導入しました!!
最高解像度 1200dpi を実現!

相談
お見積り
無料

選ぶ
2つの
仕上がり

キャップや
他の布製品も
対応可能

写真
プリント
OK

株式会社 新生社印刷

鹿屋市鹿屋市礼元1-22-34
TEL 0994-43-2238
FAX 0994-43-7541

ISO27001
認定取得

自宅・アルバイト先 ← DIRECT! → kotobuki Driving School ← DIRECT! → 学校・寮

★その日のスケジュールに合わせて1時間おきにダイレクト送迎
忙しい学校生活の強い味方です!!

★提携会社による分割払いも月々5000円からご利用になれます

心豊かな車社会を願う
運転免許のことなら
寿自動車学校

ご予約・お問い合わせ TEL 0994-43-2627 E-mail: info@kotobuki-ds.jp

〒893-0013 鹿児島県鹿屋市礼元1-13-30 県公安委員会指定教習所(技能試験免除)

ホームページURL http://kotobuki-ds.jp

すべての消費者のために!!

MOVE
This woman's Future
寿スポーツ
BEFOREST

鹿屋市新川町603-2
TEL 0994-44-2123

TODA SHUNPEI

鹿屋体育大学 4年

DF 2 戸田 峻平

roasso KUMAMOTO

ロアッソ熊本 2026 加入内定



2026シーズン

2名加入内定!

YOSHIKAWA KEISHIN

鹿屋体育大学 4年

MF 14 吉川 敬進

OITA TRINITA

大分トリニータ 2026 加入内定



【吉川さんのコメント】
 幼い頃からの夢であったプロサッカー選手としてのキャリアを、大分トリニータという素晴らしいクラブでスタートできることを大変うれしく思います。どんな時も支えてくれた家族、サッカーの楽しさ、素晴らしさを教えてくださった指導者の方々、日々切磋琢磨した仲間をはじめとするすべての方々のおかげで今の自分があります。これからも敬進という名前の由来のように、周りの人を敬いながら前に進み続け、成長していけるように日々努力します。そして、支えてくださる方々への感謝を忘れず、1日も早くチームの勝利に貢献できるよう全力を尽くします。

【戸田さんのコメント】
 私の生まれた年に設立されたロアッソ熊本というクラブで、プロキャリアをスタートできることを大変うれしく思います。これまで多くの方々と出会い、支えていただいていたおかげで、今の自分があります。つらい時も苦しい時も共に乗り越えてくれた家族や仲間への感謝の気持ちを忘れず、これからも日々努力を重ねていきます。県民の皆様にも元気を、子どもたちに夢を、そして熊本に活力を与えられるような選手を目指します。ファン・サポーターの皆さまと共に、より多くの「カモン ロッソ」を歌えるように、勝利に向かって全力で戦います。

【堀川勝行監督のコメント】
 吉川君は左利きで、左足のキックの精度はプロでも通用する強い武器を持っています。状況判断が的確で、サッカーの戦術理解度が高い選手です。まずはしっかりと大分トリニータでレギュラーをとってもらうこと、活躍してほしいと思います。

戸田君は本学サッカー部で、精神的支柱としてチームのディフェンスラインを統率してきました。プロに入っても物おじすることなく、その能力を余すところなく発揮してチームに貢献してくれることを期待しています。

本学サッカー部から、2026シーズンJリーグへの加入が2人内定しました。大分トリニータ(J2)に内定したのは、吉川敬進さん(スポーツ総合課程4年、ふたば未来学園高等学校・福島、北海道)です。吉川さんは安定した技術で得点チャンスを生み出せるサイドプレイヤーとして、豊富な運動量で攻守にわたってチームに貢献しています。

ロアッソ熊本(J2)に内定したのは、戸田峻平さん(同4年、龍谷高等学校・佐賀、鹿児島)です。戸田さんは今シーズン、サッカー部の主将としてチームを支えました。対人プレーやビルドアップに強みを持つ、常に戦う気持ちを絶やさないディフェンダーです。

二人は第79回国民スポーツ大会成年男子サッカー競技での優勝にも貢献しました。二人の内定で、本学出身のJリーガーは通算50人になりました。

【体操競技部】
 ■第68回九州学生体操競技新人大会 (10/26 佐賀/SAGAプラザ)
 ▽男子 団体総合 1位 鹿屋体育大学
 個人総合 1位 杉山 諒将
 種目別あん馬 1位 笹本 凜
 種目別つり輪 1位 杉山 諒将
 種目別跳馬 1位 工島 佑心
 種目別平行棒 1位 杉山 諒将
 種目別鉄棒 1位 杉山 諒将

■第44回全日本女子学生剣道優勝大会 (11/8~9 愛知/春日井市総合体育館)
 ▽女子 2位 鹿屋体育大学

■第73回全日本学生剣道優勝大会 (11/16 大阪/Asueアリーナ大阪)
 ▽男子 3位 鹿屋体育大学

【漕艇部】
 ■第66回全日本新人ローイング選手権大会 (10/31~11/2 埼玉/戸田ポートコース)
 ▽女子 シングルスカル 7位 兵頭 佳乃

【自転車競技部】
 ■第63回全日本学生選手権チーム・ロード・タイムトライアル大会 (11/8 埼玉/利根川上流域南側)
 ▽男子 5位 鹿屋体育大学

■第10回全日本学生選手権個人ロードタイムトライアル自転車競技大会 (11/9 埼玉/利根川上流域)
 ▽男子 6位 金井 健翔
 ▽女子 5位 今西 紗菜

【なぎなた部】
 ■第50回西日本学生なぎなた選手権大会 (11/16 鹿児島/鹿児島県総合体育センター体育館)
 ▽女子 演技競技 3位 國光、柳沢
 試合競技 個人有段の部 1位 城間 ころこ

【ウインドサーフィン部】
 ■2025年iQFOiLクラス全日本選手権 兼 2025年iQFOiL ナショナルシリーズ第3戦 唐津大会 (10/17~19 佐賀/佐賀県ヨットハーバー)
 ▽男子 3位 穴見 賢太

闘いの記録 (令和7年10月~11月)

- 【陸上競技部】
 ■第10回九州学生陸上競技新人選手権大会 (10/18~19 長崎/島原市宮陸上競技場)
 ▽男子 1500m 1位 田中 和輝
 走幅跳 1位 田邊 海士
- 【テニス部】
 ■2025年全日本大学対抗テニス王座決定試合 (男子79回・女子61回) (10/22~26 愛媛/愛媛県総合運動公園テニスコート)
 ▽女子 ベスト8 鹿屋体育大学
- 第75回九州地区大学体育大会テニス競技 (11/22~24 宮崎/都城運動公園陸球場)
 ▽男子 1位 鹿屋体育大学
 ▽女子 1位 鹿屋体育大学
- 【女子バレーボール部】
 ■令和7年度九州大学秋季バレーボール女子1部リーグ (9/13~10/19 熊本/山鹿市総合体育館ほか)
 ▽女子 1位 鹿屋体育大学
- 第79回国民スポーツ大会 (9/28~10/1 滋賀/YMITアリーナ (くさつシティアリーナ))
 ▽成年女子 5位 鹿屋体育大学 (鹿児島県)
- 【サッカー部】
 ■第79回国民スポーツ大会 (10/4~7 滋賀/東近江市総合運動公園布引陸上競技場)
 ▽成年男子 1位 鹿屋体育大学 (鹿児島県)

- 【柔道部】
 ■2025年度全日本学生柔道体重別団体優勝大会 (男子27回 女子17回) (10/18~19 兵庫/ペイコム総合体育館)
 ▽男子 5位 鹿屋体育大学
- 2025年度講道館杯全日本体重別選手権大会 (11/1~2 千葉/千葉ポートアリーナ)
 ▽女子 48kg級 7位 平峯 夏鈴
- 2025年世界形柔道選手権大会 (11/8~9 フランス/パリ)
 ▽U-21固の形 1位 野本、長岡
- 【剣道部】
 ■第64回全日本女子剣道選手権大会 (11/3 東京/日本武道館)
 ▽女子 ベスト8 橋本 陽菜

鹿屋体育大学ではこの「蒼天」や公式ウェブサイト、その他SNS等を通して広く皆様へ本学の活動情報をお知らせしております。ご覧になってのご意見、その他鹿屋体育大学の教育研究活動等へのご意見がございましたら、今後の運営・活動の参考にさせていただきますのでぜひお寄せください。

ご意見・アンケートは右記二次元コードからweb入力できます。

鹿屋体育大学へのご意見をお寄せください。

公式 HP X (旧Twitter) Facebook Instagram

情報発信中!